

CYS school センター南第2教室
令和3年度 事業所自己評価結果の公表

公表: 令和4年3月31日
アンケート期間: 令和4年 2月 22日～令和4年 3月 7日

保護者等からの事業所評価の集計結果

保護者等数(児童数)14名

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースは十分に確保されていますか。	9	4		1
	2 職員の配置数や専門性は適切ですか。	13	1		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっていますか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていますか。	13	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていますか。	12			2

事業所における自己評価結果および改善内容・改善目標

回答職員数 5名

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		7月の開所以来、日々の子どもの様子を見て、利用している子どもの特性・成長に合わせて部屋の設定を変えたり、環境を整備している。	・利用児に合わせて環境を固定化せずに調整してきた。今後も利用児の特性に合わせて環境の配慮を調整していきたい。
	2 職員の配置数は適切である	5		必要な児童には個々に視覚提示(カードや手順表等)やパーティションなどで仕切っている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		児童の成長に合わせてスペースの設定を変えている。また一人一人に合わせて教材や環境設定も変えている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		活動、身支度等落ち着いて取り組めるようスペースの広さ、またパーティションなどをを用いた視覚的な配慮、移動動線を考えている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			CYS学校の他の教室と同じように、月一の会議の日があるというと思う。 パートの研修はコロナの為あまり行けていないが、パートも計画的に研修が受けられるようにしていきたい。 常勤の先生は研修を行う機会を設けているが、非常勤の先生は設定することが難しい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		スタッフ間で情報共有をするため月1回会議の日を設けているのが良いと思った。 事例検討等の機会を設けるなど研修を行った。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1		

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていますか。	12			2
	6 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていますか。	12			2
	7 個別支援計画に沿った支援が行われていますか。	12			2
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されていますか。	12	1		1
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がありますか。	5	1	5	3

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	5			非常勤の先生とはなかなか振り返りの時間を持つことが難しい。 今後も利用児の成長に合わせて提供する支援を固定化せずに工夫していきたい。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2		
	11 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		家庭から話を聞いて用意している計画をスタッフ間でもタイムリーに共有できている。 日々の子どもの様子をスタッフ間で共有している。また、子どもの日頃の様子から活動を考え、偏らないように課題を設定している。そして、その子どもの成長に合わせて新しい課題が計画されている。	
	12 個別支援計画に沿った支援が行われている	5		療育の観点から子どもたちを支援している他の先生方の考え方、取り組みがとて勉強になる。	
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		活動準備も確認し合いながら活動をスムーズに行えるように準備している。その都度、気になる点は職員間で共有している。	
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		HUGIにてその日の様子や改善点など職員がみれるようになっている。	
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	5		利用児の特性と発達段階などをスタッフ間で共有し、必要に応じて視覚的に指示を伝えられるよう写真カードやスケジュールを用いている。	
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			
	18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
	19 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	5			
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1		
	21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	2		
	22 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	4		
	23 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	4		
	24 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	親子通園を行っているのでお父さんの支援方法が困っていることなどの共有がしやすい。アドバイスをなども積極的にこなしている。	
	25 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5		
	26 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している		5		
	27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			
	28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	1	4		

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
保護者への説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされましたか。	14			
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされましたか。	12			2
	12 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていますか。	13			1
	13 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われていますか。	9	3		2
	14 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等、保護者同士の連携が支援されていますか。	1	1	7	5
	15 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14			
	16 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていますか。	13			1
	17 定期的におたよりやホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12			2
	18 個人情報の取り扱いに十分注意されていますか。	14			

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
非常時等の対応	19 防犯対策、感染症予防、非常災害時対応方法について、保護者に周知・説明されていますか。	13			1
	20 新型コロナウイルス感染症対策は徹底されていましたか。また、緊急事態宣言発令時の対応について等、不安はありませんでしたか。	10	3		1
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	9	1	1	3

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	1		
	23 事業所の支援に満足していますか。	13	1		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明等	29 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			保護者との連携は口頭やHGUを使用して連絡は比較的近くにしていると思う。 保護者の方の気持ちに寄り添った丁寧な対応ができていていると思う。 HGUやInstagram、ホームページで教室についての情報を発信している。
	30 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	5			
	31 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			
	32 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			
	33 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		
	34 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	35 定期的におたよりやホームページ等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			
	36 個人情報の取扱いに十分注意している	4	1		
	37 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
38 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5			

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	39 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	2		避難訓練の際はどのように動かすかスタッフ間で確認してから臨んでいる。 業やヒヤリハットなどはその都度スタッフ間で共有している。 活動内容に避難訓練を取り入れ、良かった点や改善点を話し合い振り返る。 ヒヤリハットは事例集という形ではなく、日誌に記載して全員が確認できるようにしている。 利用児の移動方法、持ち物チェックなど、避難訓練を通し、避難食の数や賞味期限のチェックをしている。
	40 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			
	41 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、新しい生活様式に対応した活動内容・支援方法について日々工夫しながら取り組んでいる	5			
	42 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5			
	43 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			
	44 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1		
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	3		

事業所における分析・協議・改善案の検討結果

事業所内での分析	
【保護者様評価・職員自己評価の共通点】	・幼稚園等との交流 ・災害時の対応方法や保護者への周知 ・父母の会
【保護者様評価・職員自己評価の相違点】	・活動スペースについて ・定期的に面談や育児に関する助言等の支援が行われているか ・新型コロナウイルス関連

分析・検討してみても…	
事業所の強み	・お子さんやご家庭の事情に合わせて通所時間を調整できるため、療育の機会を減らすことが少ない。 ・保護者と一緒に通園することができるので、お子様への対応方法を一緒に考えることができる。 ・午前中に打ち合わせの時間が持てるので一人一人をしっかり把握して療育ができています。 ・公園が多いなど周囲の環境に恵まれている。 ・オートロックがあったり、エレベーターがあるなど不審者への対策や小さなお子様でも通園しやすい。 ・センター南教室とも近いので、行事を一緒にいたりなど交流ができる。
事業所の改善点	・集団療育ではあるが、個別の時間は取れるが個別に特化して療育をすることが難しい。 ・保護者同士が話せる機会がなかなか作れない(感染症の影響もあるが) ・活動のスペースは現在利用児が満員ではないため特に狭さは感じていないが、10名となるとスペース自体が狭い。 ・新型コロナウイルスに対して換気をしている時間や場所、消毒など契約時にはお伝えしているが、お知らせする機会がない。 ・災害時の対応方法について確立できていない。 ・幼稚園との交流は感染症の影響もあり、なかなか難しい。 ・定期的な面談の時間をご案内できていない。保護者より希望があれば対応可能だが、それをアピールできていない。

事業所の改善への取り組み	
・CYS schoolの集団としての強みを生かしながら。必要な部分は個別の時間も取っていくが、保護者にとって必要なこと、お子さんにとって必要なことは違う場合があるので、保護者の方へしっかり説明していく。	・新型コロナウイルスの対策について対応方法を掲示する。
・避難訓練は行っているが、色々な状況で取り組んでいくことも必要なので、設定を複数行ったり、保護者へも避難訓練の様子を伝えていく。	・相談や面談ができることをHUGの活動記録へ記載していく。
・父母の会や幼稚園との交流は感染症がおさまってきたら、できると良い。父母の会については土曜日に開催したりも検討していく。	